

1-5

思いを叶えるリスクマネジメント

安心と充実の人生のために

リスクマネジメント

個別ケア

特別養護老人ホーム 日の出ホーム

発表者：ケアワーカー 川上 綾香	共同研究者：小市晋平・飯島良尚・佐々木朋子・遠藤求
所在地：東京都西多摩郡日出町平井307	共同研究者：神田芳子・中島雅之・森谷陽一
TEL：042-597-2021	E-mail： home103@hinode-home.or.jp
FAX：042-597-1973	URL： http://www.hinode-home.or.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	介護老人施設 200 床、併設の在宅サービスセンターひので理想郷の園定員 40 名、デイサービスセンターサンライズ平井っ原定員 15 名、SS15 床、居宅介護支援事業所の 5 事業を運営。法人理念「安心と充実の人生をご一緒に」を掲げ、サービスの提供を目指している。
----------------------------	---

〈取り組んだ課題〉

A 様は生活の全般において自らの行動を自らの意思で行うが、移動や移乗がうまくできないことがあり転倒・転落事故が続いてしまった。そこでインシデントレポートを活用し、他職種と連携して様々な観点から事故削減の対応を行なった。その結果、A 様が安心した生活を送り、その思いを実現するサポートを行なった。

〈具体的な取り組み〉

対象者：A 様 70 歳、男性 要介護度 5、身体障害者 2 級
既往歴：オリーブ橋小脳萎縮症（難病）

仙骨部褥瘡 高血圧症

H21 年 1 月に入所後、5 ヶ月の間に事故が 5 回続いた。難病により体が自由に動かないことによる事故が多かった。また「職員に依頼すると職員に悪い」という気持ちが強くなり、自ら 1 人で行動し転倒してしまうという悪循環もみられた。そこで以下の取り組みを実施した。

○インシデントレポートシステムを活用し ISO9001 に則り報告、分析、対策を行う。

○センター方式、SHELLL 分析を行い「病気」「性格」「生活環境」「作業手順」「職員の関わり」等を再度検討した。

○勉強会で A 様の病気の特徴や考えられるリスクについてフロア職員に対応時のポイントを伝えた。

○シーティング研究会が介入し、車いすを A 様に適したものに変更した。

○介護課・OT・PT・看護課・ケアマネージャーなどによるチームアプローチを行った。

〈活動の成果と評価〉

○居室の環境を整えたり主に適した車いすを使用したりすることにより活動の安全性と範囲が広がった。

○医師・看護課と薬の調整を行ない、日中の排便を促した。これにより夜間の転倒防止に繋がった。

○オリーブ橋小脳萎縮症という病気から予想される行動への対応を行えるようになった。

○今回のケースを通して病理的視点を養うことができた。

○A 様との関わりが増え、職員が A 様の希望や思いに気付くことができた。また、信頼関係を築くことができた。

○A 様の要望によりパチンコへの外出を予定している。

〈今後の課題〉

○病気の進行に合わせた継続的な予防対策の実施。

○今回の事例を通し「その人がその人らしく暮らすこと」に合わせたケアの重要性を理解することができた。

今後、一人でも多くの入居者に対しても、さまざまな視点から対応を検討し、事故がない、安心できる生活を支援していき続けることが課題である。

〈参考資料など〉

水野美邦、栗原輝幸編：標準神経病学、pp 251-252、医学書院、東京、2005

【メモ欄】